

1 部

学習サポート

各種申込締切について

- 『試験・スクーリング情報ブック2019』にてご確認ください。
 - ・ p. 4～5→学年暦 ・ p. 8～13→通信教育部カレンダー
 - ・ p. 46～49→社会福祉士 演習・実習科目関連締切等
 - ・ p. 50～52→精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等

5 / 28 ～ 7 / 28 の追加・変更点

- 科目修了試験会場変更（7 / 7 釧路）
（変更後）釧路市総合福祉センター ※ p. 17～18参照

『客観式レポート集 2019』についてのお詫び

冊子の発行、および「TFUオンデマンド」への配信が予定より遅くなり、また一部科目において論述式レポートへの変更もあり、ご迷惑をおかけしました。大変申し訳ありませんでした。

※詳細は p. 40、 p. 70～75をご参照ください。

夏期スクーリング受講にあたっての留意点

- (1) 羽織る衣類等をご持参ください 教室の冷房について、体感温度には個人差があるため、全ての方に快適な室温とすることは困難です。また、エアコンの吹き出し口付近の座席はかなり冷えることがあります。そのため、ご自身の衣類等や座席位置にて調節をお願いします。
- (2) 健康保険証をご持参ください 暑さや冷房等により体調を崩しやすい季節です。万が一に備え、持参されることをお奨めいたします。

レポートを書かなければならない幸せ… 年度始めのメッセージ

教員 MESSAGE

通信教育部副部長・准教授 佐藤 俊人

たくさんの価値観に触れる楽しみを

新しい年度がはじまりました。4月に入学されたみなさん、ご入学おめでとうございます。また、2年目以降の方も、あらたな学習意欲がわき上がってきたころではないでしょうか。さて、社会福祉学科、福祉心理学科とも、その研究活動の目的は「人が幸せに生きることをお手伝いする」ということだと思います。そのため、カリキュラムにも多彩な科目が準備されており、様々な場面での支援を学ぶことができるはずです。そのようなカリキュラムに沿って学習を進めていくうちに、同じ現象について科目や担当教員によってその分析や解説が違うことに気づくこともあります。最初はとまどうこともあるかもしれませんが、それが大学の学びのおもしろさでもあります。なぜそれが面白いのでしょうか。

「幸せって何だっけ♪」

というCM曲がヒットしたのは、もう30年以上前になるんですね…。この曲とは関係なくとも、たぶん人間は「幸せって何だっけ」の答えを探し続けているのかもしれませんが。しかし同時に、明確な答えなどないことも何となく気づいてもいるのだと思います。

「あなたは幸せだよ」といわれても「そんなことはないよ」と感じたり、子どもが「生まれてきてくれただけで幸せ」だったはずなのが、いつの間にか子どもにイライラするようになってたりと、どうやら幸せというものはとてもつかみどころのないもののようです。

おそらく、私がこういう文章を「書かせてもらっていること」自体が幸せだし、みなさんが「レポート課題に苦労したり、スクーリングの計画に苦慮すること」も幸せなことなのだろうと思います。言い古された表現ですが、自分にとってあたりまえのことをあたりまえにできる日常が幸せなのだろうとは思いますが、具体的に私たち一人ひとりにとっての幸せは何かを明快に説明することはとても難しいことです。

福祉や心理という視点から支援を考えるような場合は、「何人もの幸せ」を同時に考えなければなりませんので、もっと複雑なものになります。高齢者の幸せだけを考えてしまうとその家族が大変な状態になったり、子どもの幸せだけを考えれば、その親にストレスを感じさせてしまうこともあります。自動車を運転しなければ移動が制約される高齢者とそれをやめさせたい家族、自己主張ができるようになったイヤイヤ期の子どもとそれに苦労している親、など例を挙げればいくらでもあります。「一人の幸せ」自体があいまいなのに、それを数人分同時に解決するということは、正解のない方程式を解こうとしているようなことなのかもしれません。でも、正解っていったい何なんでしょうか。

「その人たち」しか「正解と感じる」ことはできない

これもあたりまえですが、正解のない方程式を解こうとしても、正解がないのですから解けません…。福祉や心理には、どんなケースにでも当てはまる正解など必要ないわけです。結局はその人たちがなんとなく幸せと感じるのであれば、それが正解なのでしょう。

福祉においても心理においても、その人を「無条件に受容」することはとても重要だと言われています。支援者が「この問題をこう解決したら幸せだよ」と考えて解決策を提案しても、その人がそれで幸せだと感じなければ意味がありません。冷たい表現かもしれませんが、その人が何を幸せ

と感じるかは、その人しか決めることができないものです。みなさんも私も、その人なりの幸せに近づくことを、ほんの少しお手伝いできるだけです。このように、様々な価値観を持っている人たちを支援するためには、様々な価値観やプランを懐に忍ばせておかなければ、受容的な支援などできません。ですから、大学での学びは、多くの科目や教員の多彩な価値観に触れ、それを盗み、自分のレパートリーの一部としておくことが重要であり、おもしろいわけです。

みなさんも、一人ひとり違う目標を持って学習を進めているものと思います。その学びを人生の中でどのような形で活かすことができるだろうか、と常に考えながら「レポートを書き、スクーリングに出席する幸せ」を感じて頂ければと思います。その積み重ねが、少しずつでも「あたりまえを、超えていく」ことにつながるはずです。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリングの感想を抜粋しました。

●社会福祉援助技術総論 三浦 剛

- ・講義の中で実例を挙げてケース毎に対処の方法、考え方を指導していただけたことが、仕事にすぐにかかすことができ嬉しかったです。
- ・総論ということで、新しい発見にもつながりましたが再確認にもなりました。特に相談援助をする姿勢として、クライアントの持っている力を発揮してもらうように導くことの重要性を知りました。また、個人のサービス支援に主眼がいてしまう傾向にありますが、社会という視点を持つことの重要性を学びました。
- ・テキストには載っていない事例をまぜながら話していただいたので理解しやすかったです。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅰ(総論) 狩野 俊介

- ・資料がわかりやすくまとまっており、また他の科目にも役立つようにつられており、先生の授業に対しての意欲が伝わってきました。ソーシャルワークの歴史がわかりました。
- ・資料の年表と対比して講義を聞くと、内容が頭に入りやすく良かった。正直、資格取得のために受講したのであまり興味はなかったが、講義を聞くことで興味関心を持つことができました。

●福祉心理学 渡部 純夫

- ・老年期の生きがいについてスクーリングを受ける前は友達や趣味、勉強などポジティブな面ばかりに目がいていたが、万引きや悪口などの反社会的な行動も本人にとっては生きがいとなりうるということがとても新鮮に感じた。
- ・心を科学することは難しいことですが、科学する事で対人援助にいかせる、自身や相手の行動や心に影響を与えることができるのだと学びました。対人援助は感覚で行ってはいけな、学びのうえで知識を持って行うべきだと気付けられました。
- ・「認知症」の問題行動には、それぞれ意味がある。その行動をやめさせるのではなく、受け止め、満たしてあげる方向にもっていくことが大切ということに納得しました。子育てに活用できることも多々あり、役立つと感じました。
- ・介護の現場が長いと、利用者へ業務的なケアを行っていたことを反省した。明日の勤務から早速、「福祉心理学」で学んだ内容を取り入れ、利用者の尊厳や、その人らしさに寄り添ったケアを行っていきたい。
- ・「福祉心理学」において、課題や問題が様々あるが、絶対の方法や答えはないということについて、どこかホッとしました。今回の講義を聞いて、利用者に関わること、話を聞くことにもっと時間を使っていこうと思いました。